

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
発行日 毎月 1 日
平成 31 年 4 月号



園芸産出額全国 1 位の奪還に向けた 産地の生産力強化

千葉県農林水産部生産振興課
課長 須合 健己

本県の園芸は、県農業産出額の約半分を占める重要な部門であり、平成 29 年の産出額は 2,191 億円で、茨城県、北海道に次ぐ全国 3 位となっています。県では、「園芸産出額全国 1 位」の奪還に向けて、新たな千葉県農林水産業振興計画を策定し、各種施策を展開することにより、産地の生産・販売力を強化してまいります。

1 野菜の振興対策

本県の野菜は温暖な気候と首都圏に位置する恵まれた立地条件の下で発展して参りましたが、国内消費の減少や担い手不足、産地間競争の激化など、本県農業を取り巻く情勢は厳しくなっております。

そこで、需要の変化に柔軟に対応できる産地の育成に向けては、(公社)千葉県園芸協会を核とした産地連携の取組を通じて、出荷規格の統一や荷姿の共通化等を推進しているところです。また、産地の中核施設となる集出荷場や大規模選果ライン等については、国庫事業等を活用して整備を進めています。高収益型園芸農業の推進に向けては、施設園芸分野において ICT を活用したスマート農業の普及を図っており、施設内環境の最適化を図り生産性向上を実現するために、環境モニタリング装置等のハード整備に対する助成に加え、県内生産者や関係機関を対象とした現地検討会を開催するなど、ハード・ソフトの両面から支援を行っているところです。

2 果樹の振興対策

本県の梨については、約 250 年の歴史があり、産地の多くが大消費地である都市部に位置しております。そして、生産者の方々のたゆまぬ努力により、現在の産出額は全国第 1 位となっています。主力品種の「幸水」は昭和 50 年代に急速に普及しましたが、現在は樹齢が 30 年を超えて生産力が落ちる老木の割合が増加していることから、生産力を維持するためには、計画的に改植を行う必要があります。そこで県では、改植後の減収期間の短縮と省力栽培

が可能となる早期成園化用の大苗(2年間で3.3m以上に育成した苗木)の供給体制整備や改植の労力負担を軽減するため、老木の抜き取りなどの改植作業の外部化について検証しているところです。また、生産量が減少している南房総特産のびわやかんきつについては、作期の拡大等により観光需要にも対応できる生産体制の整備に向けて、遊休ハウスを用いた栽培や中晩柑等の新たな品目の導入等に取り組んでいるところです。今後も、こうした取組を引き続き行うことで、本県果樹を振興して参ります。

3 花植木の振興対策

本県の花植木については、歴史ある安房の切花をはじめ、各種鉢花や海外に輸出される植木など、多様な品目が大きな特徴となっています。また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、競技会場のある本県に多くの来場者が見込まれます。そこで県では、千葉県花き振興地域協議会と連携して、夏の高湿期に強い品目を選定し需要の拡大を図ることを目的とした花壇づくりコンテストを幕張地区で行ってきました。今後も、企業や団体等と連携し、多くの来訪者がある幕張新都心エリアにおいて、本県の花の魅力を積極的に発信するとともに、県産花きの活用を推進していきます。植木については、更なる輸出拡大に向けて、意欲ある生産者の拡大に向けた相談窓口の設置や研修会を、国内需要に関しては生産者と実需者を結ぶ商談の場を設置する取組を引き続き実施して参ります。

野菜ニュース



黒皮種なしスイカ「ブラックジャック」の「日焼け」低減対策

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所
東総野菜研究室 研究員 千吉良 敦史

「ブラックジャック」の「日焼け」は、遮光率 10% 程度の遮光資材（パスライト等）をビニールトンネルの上に被せることで、低減することができます。特に草勢が弱く、生育後半に晴天日が続く時に高い効果が期待されます。

1 はじめに

黒皮の種なしスイカ「ブラックジャック」（ナント種苗（株））は、品質や食味が優れ、食べやすさやカット販売に適していることなどから、年々需要は高まっています。しかし、7 月の収穫期には、果皮が色あせる「日焼け」（写真 1）の発生がしばしばみられ、問題となっています。そこで、遮光資材によって「日焼け」の発生を抑える方法を明らかにしました。

2 「日焼け」の原因

「日焼け」は、果実の肥大期後半に、直射日光により果皮の表面温度が上昇することで起こります。「ブラックジャック」は果皮色が特に濃いので、表面温度が高くなりやすく、色あせも目立ちます。また、「日焼け」は単に高温と強日射の影響で発生するわけではありません。天候や栽培方法などの影響で、草勢が弱まり、根からの吸水が不足した時に、高温と強日射に遭遇すると発生すると考えられています。

3 遮光による「日焼け」の低減対策

(1) 遮光の効果

2015 年に遮光率 10% 程度の遮光資材（パスライト、ユニチカ（株））の設置（遮光区）による発生低減効果を、慣行栽培（無処理区）と比較しました。遮光資材は、「日焼け」の発生しやすくなる授粉 24~30 日後にトンネルの南西側半分だけに設置しました（写真 2）。2015 年は、草勢が弱い年（株当たり茎葉重 2.7kg）であり、収穫前の 5 日間に曇雨天後の急激な晴天に見舞われ、無処理区



写真 1 日焼け果

では 50% の果実で「日焼け」が発生しました。しかし、遮光区では「日焼け」が発生しませんでした。遮光資材は、トンネルバンドの下を潜らせて設置できるので作業性が良く、再利用も可能です。



写真 2 遮光区の被覆資材設置状況

(2) 草勢による効果の違い

2016 年と 2017 年に、同じ遮光資材を用いて、その効果を確認しました。2016 年は草勢のやや強い年（株当たり茎葉重 4.6kg）で、「日焼け」の発生は無処理区では 25% であったのに対して、遮光区では 4% と低くなりました。一方、2017 年は草勢の強い年（株当たり茎葉重 6.8kg）で、収穫 1 週間程前から曇りがちになった影響もあり、「日焼け」は無処理区で 3% 発生したのみでした。また、遮光区では、胎座部（種子のある部位）の糖度が無処理区より低くなりました。

以上のように、3 年間の試験結果から、草勢が弱~中程度（茎葉が黄変していたり、スイカが茎葉に隠れず目立つ状態）で収穫前に晴天となる状況で「日焼け」が発生しやすく、被覆による低減効果が高くなり、糖度の低下もありません。一方、草勢が強く、収穫前に日射量が少ないような状況では、遮光により糖度が低下することがあります。

4 まとめ

果実の「日焼け」低減には、遮光が有効です。作業労力及び資材の再利用性を考慮すると、パスライトのような遮光率 10% 程度の遮光資材をビニールトンネルの上に被覆することが適当です。弱~中程度の草勢で、生育後半に好天が予測されるような場合に、遮光による「日焼け」低減の高い効果が期待できます。



葉菜類の有機栽培の土づくり —可給態窒素の目標値—

千葉県農林総合研究センター 土壌環境研究室
研究員 塚本 崇志

土壌中の可給態窒素（地力窒素）は、特に有機栽培で安定した収量を得るためには重要です。春どりリーフレタスや冬どりホウレンソウの栽培試験から、葉菜類の有機栽培で十分な収量を得るための可給態窒素含量の目標値を6~7mg/100gと設定しました。

1 はじめに

化学肥料を施用せず、地力に依存した生産方式である有機栽培において、安定した収量を確保するためには、土壌に含まれる有機物が分解して放出される窒素である可給態窒素（地力窒素）を高める必要があります。この土壌中の可給態窒素含量は、根菜類よりも葉菜類の栽培において影響が出やすいことが知られています。そこで、有機栽培における葉菜類の安定生産のために、土壌中の可給態窒素含量と収量との関係を明らかにし、十分な収量を得るための可給態窒素含量の目標値を策定しました。

2 栽培概要

土壌の可給態窒素含量の違いが葉菜類の生育に及ぼす影響を明らかにするために、可給態窒素含量の異なる黒ボク土土壌（「低窒素区」3.8mg/100g、「中窒素区」6.0mg/100g、「高窒素区」8.8mg/100g）において、肥料を施用せずに春どりリーフレタスを栽培しました。対照区として、低窒素区と同じ土壌に化成肥料を施肥基準量で施用する「化成区」を設けました。

リーフレタスの栽培は、平成27年2月16日にリーフレタス（品種：「グリーンジャケット」、タキイ種苗株）を128穴セルトレイに播種し、3月16日に、条間30cm、株間30cm千鳥植えて1区8株定植しました。5月21日に収穫を行いました。

3 結果

可給態窒素含量の異なる3種類の土壌において肥料を与えずに春どりリーフレタスを栽培したところ、リーフレタスの収穫時の地上部新鮮重は、高窒素区及び化成区が5.8及び5.4t/10aで他試験区よりも大きく、次いで中窒素区が3.9t/10a、低窒素区は2.5t/10aで最も小さくなりました（図1）。土壌の可給態窒素含量が高まることで、リーフレタスの地上部新鮮重が増加しました。窒素吸収量も同様の傾向でした（データ省略）。

また、リーフレタス栽培前の土壌中可給態窒素含量と地上部新鮮重との間には、関係性が認められました（図2）。この図から、一般的な有機栽培における春どりリーフレタスの十分な収量とされる4.3t/10aを得るためには、6.8mg/100gの可給態窒素含量が必要であると推察されました。また、

冬どりホウレンソウ等で行った同様の栽培試験結果と合わせて、黒ボク土では、葉菜類の十分な収量が得られる土壌の可給態窒素含量の目標値を6~7mg/100gと設定しました。

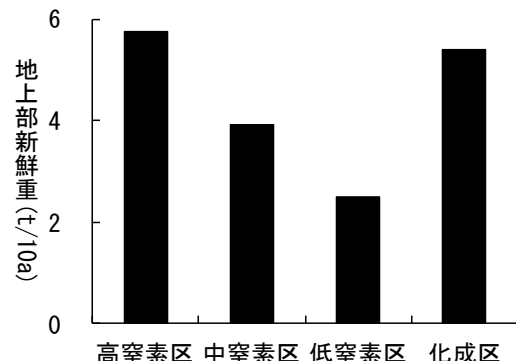


図1 リーフレタスの地上部新鮮重

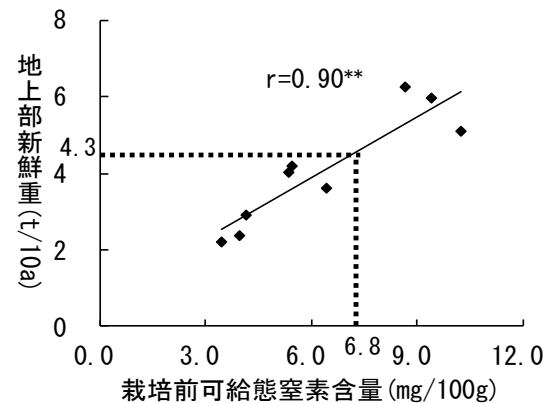


図2 リーフレタスの栽培前土壌の可給態窒素含量と地上部新鮮重との関係

注) **は1%水準で有意

4 おわりに

可給態窒素は一般的な土壌診断項目に入っていないませんが、近年、可給態窒素含量を簡易に判定する手法（千葉県で開発した「煮沸浸出法」や、「80℃16時間水抽出法」等）が開発されています。これらの手法を活用し、有機栽培ほ場の可給態窒素含量を把握することにより、目標値を目指して堆肥等の有機物を施用することで地力を高める土づくりが進むことが期待されます。

流通情報



豊洲市場移転に伴う新たなビジネス展開

東京シティ青果株式会社
代表取締役社長 鈴木 敏行

当社は、最先端設備を整えた総合卸売市場である豊洲において、時代のニーズに応える、青果物流通の新しいビジネスモデルを展開し併せて食文化の発信基地を目指します。

平成 30 年 10 月、東京シティ青果株式会社は豊洲市場における唯一の生鮮青果物卸売会社として移転・入場しました。築地市場 80 余年の中で培ってきた産地の皆さまとの強い絆と目利きの技を、安全・安心を確保した最新設備の市場の中で、更にグレードアップし全国の生産地と連携した高品質の生鮮青果物を東京都民はじめ全国の消費者の皆さまに安定供給するという使命を果たしていきたいと考えております。

今、青果物を取り巻く環境は、食の安全・安心への意識の高まり、消費者ニーズの多様化、TPP などによる生産体制の変化、インターネット販売の増加など、激しく変化しています。私たち、東京シティ青果はこうした環境を踏まえ具体的なビジョンのもと、皆さまのお役に立てるビジネスを展開いたします。

1 食の多様化に対応した、消費者に近づくチャンネル 開拓

消費者の食生活への満足度を高めるためには、青果専門店やレストランなど、小口買出しへの対応の充実が大切です。青果物専門商社として、産地や販売先との調整を今まで以上に諮りながら季節に合わせた、多種多様な商品提案をします。

そのため、1 階の卸売場内にプロ仕様の厨房施設を備えた「フレッシュラボ (テストキッチン)」を設置し、仲卸や買参人への試食宣伝や産地による PR 活動ができます。

2 量販店・スーパーマーケットへの販路拡大

消費者が食材購入でもっとも利用するスーパーマーケット対応については、築地市場時代は施設の狭隘化で十分な対応ができませんでした。豊洲市場では搬出専用バースを設置し、量販店の店舗配送が可能となりました。また、2 階の事務所棟にスーパーの仕入れ担当者が駐在できるスペースを設けて、迅速・丁寧な商談を実施することによって、商品や販促企画などの提案を行い、販路拡大につなげて参ります。

また、3 階の加工パッケージ施設には、高速ピロー、シュリンク、組合せ計量器などの最新鋭機器が導入されており、エアシャワー、マルチオゾンシステムや金属探知機も備え高度な衛生・安全管理の下で、青果物の付加価値を高め販売拡大を図って参ります。

3 安全・安心の取組

当社は、2017 年 12 月に日本の青果物卸売会社では初めてである食品安全管理の国際認証 F S S C 22000 と日本の食品安全マネジメントシステム J F S - C 規格を取得し、高度な衛生管理で安心・安全を目に見える形で実践していきます。場内の搬送機器はすべて環境に配慮した電動式で健康と環境への負荷軽減を実現しております。

4 温度管理に敏感な青果物の品揃えの強化・充実

豊洲市場は、卸売市場で初めての全館閉鎖型の施設で、搬入から搬出まで定温管理によって、産地の皆さまが丹精込めて生産した青果物の鮮度と品質を保持し、採れたての状態で消費者の食卓に届けることが可能となりました。今まで以上に鮮度管理に敏感な品目を強化して、豊洲市場独自の品揃えを進め、競合他市場にない強みを発揮し、産地の負託に応えていきたいと考えております。

5 千葉県産青果物の生産拡大に向けた連携への期待

千葉県産青果物はその多様な品目と生産量とにおいて魅力にあふれており、当社の最重要産地であります。至近距離にあることから物流面での優位性と最新鋭の市場設備を有効活用して、生産と販売の連動を図り、より付加価値の高い品目にシフトした鮮度の優れた千葉県産生鮮青果物を全国の消費者にお届けしていくことで需要を喚起し、生産量が減少している園芸農産物の生産拡大に寄与していきたいと考えています。

以上に述べたように、当社は青果物卸売会社としての社会的使命を果たしながら、生産者と販売者、消費者を結ぶ新しい青果ビジネスに積極的に取り組んで参ります。

私たちは築地市場で培ってきた伝統と文化を継承し、この先次の 100 年に向かって、新しい豊洲ブランドを築

きながら、皆さまの御期待に応えてまいりま
すので、今後ともよろしくお願
い申し上げます。



平成 31 年 10 月 11 日 開場日セレモニー
都知事小池百合子氏と

頑張る産地



切り花の周年安定生産で収益拡大をめざす！

山武農業事務所 改良普及課

(執筆者: (現)安房農業事務所 企画振興課 技師 林 聖麗)

丸朝園芸農協花卉部理事の遠藤勝男さんは、富里市で、キクやカラーなどの切り花にニンジンを組み合わせ、周年出荷しています。蓄積されたデータによる安定生産、情報収集による技術改善の取組などにより花卉部を代表する生産者の一人となっています。

1 就農時からの経営の変遷

遠藤さんは、大学卒業後の昭和 56 年に就農し、当時は施設でスイカ、トマト、露地でニンジン栽培していました。平成 4 年に出荷先である丸朝園芸農協が花きの取扱を開始し、職員からの勧めもあったことから、花きを導入、拡大しました。

一時は花きのみを出荷していましたが、近年は野菜と組み合わせることで、周年の労働の平準化や、施設の有効利用を図っています。

現在は、施設 90a、露地 100a でキク、カラーなどの花き類とニンジンを生産し、全量を丸朝園芸農協に出荷しています。労働力は、約 10 年前に就農した後継者の圭介さんを含む家族 4 名と、常時雇用 1 名です。



遠藤 勝男 氏

2 力を入れていること

(1) 栽培記録の活用

遠藤さんは、スマートフォンで管理作業(定植、施肥等)や防除状況、観察して気付いたことなどを、施設ごとに 1 日単位で記録しています。キクにおいては、蕾の定点撮影により開花時期を予測し、需要期に出荷できるよう夜温管理などで微調整しています。長年蓄積されたデータは、日々の管理や判断の参考とし、安定生産に役立っています。

(2) 情報収集と技術導入

何事にも今のやり方に満足せず、常に改善できないか考えています。出荷時の情報交換をはじめ、所属組織の研修会や視察へ積極的に参加し、個人でも種苗会社を訪問するなど、大変研究熱心です。良いと思ったものは機を逃さず導入しており、日没後昇温処理、LED 電照などもその一つです。機器類は、勉強し自作することでコスト削減を図っています。

3 今後について

生産品目は花きにこだわってはいませんが、まだ花きでの収益拡大が可能だと考えています。特にキクでは、春彼岸出しの作型導入による周年出荷と、親株管理の徹底による良質な苗生産を目指しています。冬季の収量・品質の向上を目的とした炭酸ガスの施用についても検討中です。

また、むやみに規模拡大するのではなく、自分の目の届く範囲で、品質に責任を持ち出荷したいとの想いを抱いています。



出荷間近のキク

県産農林産物の輸出に チャレンジしよう！ ～輸出補助事業実施者募集のお知らせ～

1 対象団体 市町村、農業協同組合、営農組織等

2 対象商品 本県産の農林水産物及びその加工品

3 補助・支援対象

千葉の農林水産物輸出支援事業（ソフト）
試験輸出、海外での販促活動などに要する経費
千葉の農林水産物輸出環境整備事業（ハード）
輸出に資する機械・施設等の整備に要する経費

4 助成の内容

予算額：ソフト2,000万円
ハード 400万円
補助率：事業費の2分の1以内

5 応募方法

県ホームページを参照し(4月上旬頃掲載)、事業実施計画書を締切日までに御提出ください。

【お問合せ先】

千葉県農林水産部流通販売課
販売・輸出促進室
TEL 043-223-3086

卸売市場法改正の概要 について

2020年6月、改正卸売市場法が施行されます。

【主な改正内容】

1 卸売市場整備基本方針等の廃止

卸売市場の整備を図るために必要な事項を定めている卸売市場整備基本方針や卸売市場整備計画を廃止とする一方で、国は、基本的な事項を定めた卸売市場基本方針を定めます。

2 開設許可制度から認定制度への変更

制度の変更により、卸売市場の開設の制限は撤廃されますが、既に開設許可を受けている地方卸売市場が、引き続き地方卸売市場を称するためには、改めて認定を受ける必要があります。

3 取引規制の設定方法の変更

共通ルール(差別的取扱いの禁止など)以外の取引規制は、取引参加者の意見を偏りなく十分に聴いた上で定め、意見聴取の議事録や定めた理由を公表することとされています。

【お問合せ先】

千葉県農林水産部流通販売課
農業ビジネス推進班
TEL 043-223-2963

「Orchid Heaven -楽園-」優秀賞を受賞 「世界らん展 2019」

千葉県洋らん生産者組合

「世界らん展 一花と緑の祭典」が2月15日(金)から2月22日(金)までの8日間、東京ドームで開催されました。

この催しは、国内外の蘭愛好家や生産者が情報を交換する場であるとともに、一般の方に蘭に親しんでもらうため開催され、今年で29回目を迎えました。

千葉県洋らん生産者組合では、本県産の洋らんの素晴らしさをPRするため、毎年ディスプレイ審査部門に出展しており、過去に最優秀賞を6度受賞しています。今年はい関谷展示委員長を中心に、組合員が丹精込めて育てた蘭をふんだんに使って展示作品を完成させました。木(ぼく)と滝を配した自然味あふれるデザインにより、展示テーマ「Orchid Heaven -楽園-」の名にふさわしい、生き生きと咲き競う蘭の魅力を引き出し、優秀賞を受賞しました。

開催期間中は、多くの来場者が当組合の展示の前で足を止め、記念撮影する様子が見られ、千葉の洋らんの魅力を感じていただけたと思います。



ディスプレイ展示
「Orchid Heaven=楽園」の前で